科目ナンバリング	U-LAS04 20001 LJ45

授業科目名 <英訳>	偏見・差別・人権 Prejudice, Discrimination, and Human Rights	担当者所属 職名・氏名	国際高等教育院 特定教授 廣野　由美子 非常勤講師 豊福　誠二 非常勤講師 牧野　雅子 学生総合支援機構 准教授 村田　淳 教育学研究科 講師 奥村　旅人 非常勤講師 深澤　吉隆 教育改革戦略本部 特定教授 Mitsuyo Wada-Marciano

群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	教育・心理・社会(各論)	使用言語	日本語

旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）

開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	月5	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

人間社会における偏見と差別に関わる諸問題を人権の観点から学問的に解明し、教授することは、大学として果たすべき重要な基本課題であるとの認識に立ち、本学学生に人権問題に関する概論を教授するため、全学共通科目「偏見・差別・人権」を開講する。

[到達目標]

講義を通じて社会における偏見と差別についての認識を深めると同時に、人権問題を自ら考える機会とする。

[授業計画と内容]

以下の５つのテーマを取り上げ、それぞれのテーマに関する講義を行う。

①豊福誠二　現代社会における人権の問題（第1回、第2回）
本講座では、まず、弁護士である講師が「人権とは何であるか」について概説をする。その上で、近時みられる「ヘイト・スピーチ」の現状を紹介し、なぜこのような現象が発生するのか、どのような被害があるのか、法的規制はどうあるべきかについて考える。

②深澤吉隆　被差別部落に関する問題（第3回～第5回）
部落差別は、同一の文化を有する人びとのなかで、些細な差異を拡大（あるいは差異を捏造）することで形成された、世界史的にみても稀な差別だといわれる。こうした差別の成立過程、自由・平等などの理念を基調とする現代社会になお残存している理由、問題解決の道筋について、歴史や現状のなかに分け入ることで探っていきたい。

③奥村旅人　外国人に関する問題（第6回～第8回）
「外国人労働者」の現状について、①現代日本の労働者が直面している様々な問題が、外国人にはどのように表れているのか、②外国人であるがゆえに直面せざる問題はどのようなものかという観点から考察する。①については、低賃金や長時間労働などの日本の労働社会を取り巻く問題が、外国人労働者により先鋭化した形で表れているということについて考える。②については、日本語教育機会の不充分さ、解雇されることのリスクなど、外国人労働者特有の問題を考える。

④牧野雅子　ジェンダーに関する問題（第9回～第11回）
男／女に二分する思考やそれに基づく異性愛は、「当たり前」なことだとみなされて、日常生活から法、制度に至るまでわたしたちの社会に根付き、しばしば差別を正当化している。しかし、こうした性差に関する既成概念は、歴史的、社会的に形成されたものであり、決して「自然」なものではない。本講座では、ジェンダーに基づく暴力を中心に、近年の性差別問題を取り上げて、ジェン

偏見・差別・人権(2)へ続く↓↓↓

偏見・差別・人権(2)

ダーに関する差別や偏見について考える。

⑤村田淳　障害(disability)に関する問題（第12回～第14回）
障害のある人の尊厳や自律（自立）の尊重、無差別、社会への完全な参加などについて定めた「障害者権利条約（国連）」を背景に、2024年4月には改正障害者差別解消法が施行されるなど障害者に関する問題は変革期を迎えている。本講座では、現代における障害とは何か、合理的配慮とは何かを探る機会としたい。

《期末試験》
フィードバック
授業回数はフィードバックを含め全15回とする。
※コーディネーター： 廣野由美子 国際高等教育院特定教授

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

毎回の小レポートと定期試験で成績評価を行う（小レポート４０点、定期試験６０点）。
なお、授業に８回以上出席して、それらの出席した授業のそれぞれについて合計８つ以上の小レポートを提出すること（授業に出席して、かつ、その授業で課された小レポートを提出する。このことが、８回以上行われていること）を定期試験の受験資格とする。
状況によって定期試験をレポート試験に代えることがある。

[教科書]

使用しない
毎回の授業資料を当日朝までにLMSに掲載する。

[授業外学修（予習・復習）等]

講義内容の復習を行うこと。

[その他（オフィスアワー等）]

[主要授業科目（学部・学科名）]